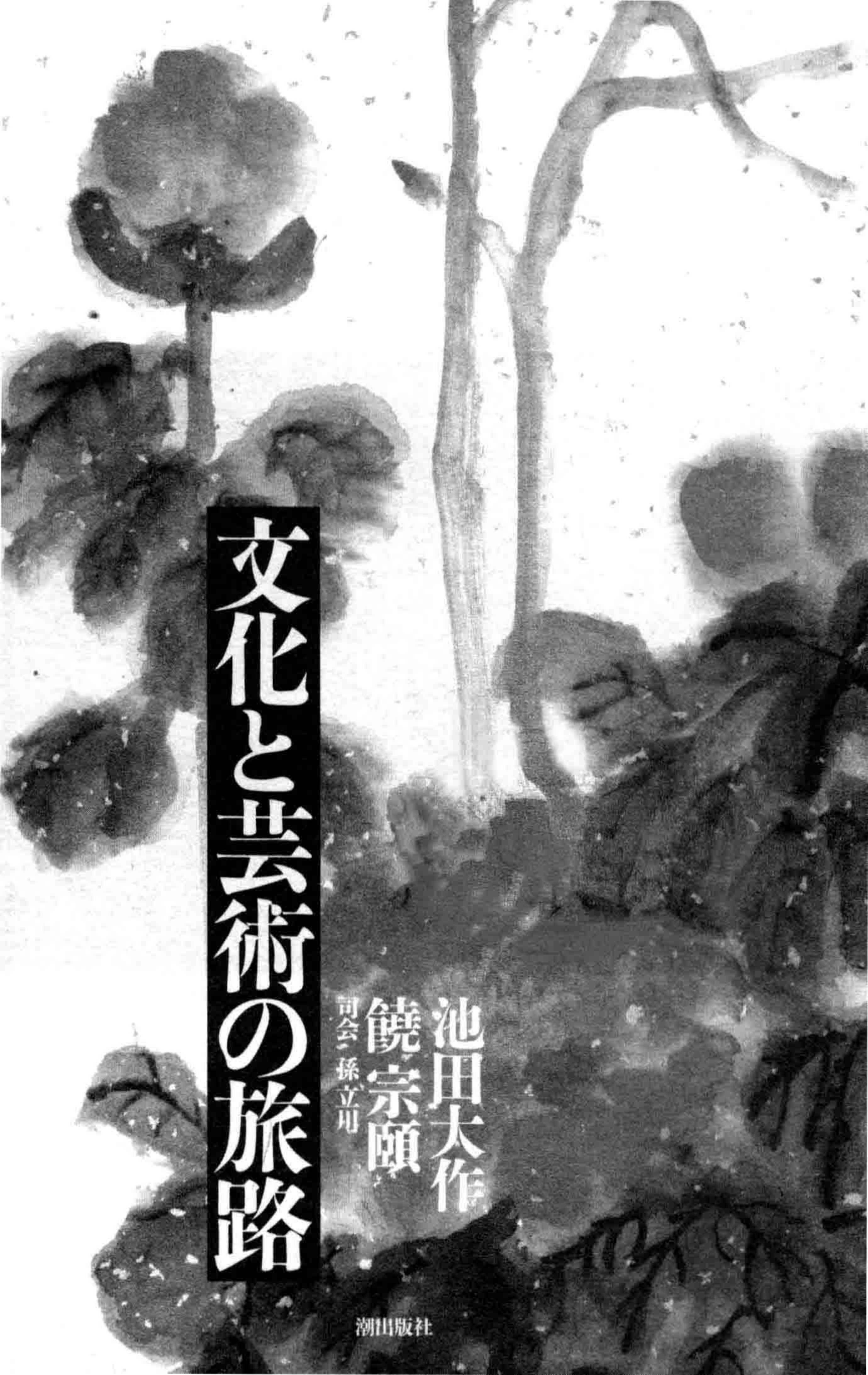


文化と芸術の旅路

池田大作
饒宗頤

司会 孫立川

潮出版社



文化と芸術の旅路

池田大作

饒宗頤

司会・孫立用

潮出版社

ぶんか げいじゆつ たびじ
文化と芸術の旅路

二〇〇九年二月十一日 初版発行

著者

じようそうい
饒宗頤

いけだだいさく
池田大作

そんりつせん
孫立川

発行者 西原賢太郎

発行所 株式会社 潮出版社

〒一〇二八一一〇 東京都千代田区飯田橋三一一三

電話〇三―三二三〇―〇七八一（編集部）

〇三―三二三〇―〇七四一（販売部）

振替〇〇―一五〇―五六一〇九〇

<http://www.usio.co.jp>

印刷・製本 大日本印刷株式会社

©Jao Tsung-I, Daisaku Ikeda, Sun Li-Chuan 2009,
Printed in Japan
ISBN978-4-267-01807-7 C0095

乱丁・落丁本は送料弊社負担でお取り替えいたします。
本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）
することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出
版社の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小
社あて許諾を求めてください。

第一章 求道の青春 友誼の歩み 7

第二章 学芸とは人間性の戦い 35

第三章 民衆こそ友好の大海 59

第四章 人生の勝利——「師弟」の道 89

第五章 「漢字」の力——東アジアを結ぶ智慧 119

第六章 正義の言論——「良書」に光る不滅の英知 149

第七章	東洋美術の真髓——「美の交流」の喜び	183
-----	--------------------	-----

第八章	限りなき「創造」の精神	217
-----	-------------	-----

第九章	法華経——平和と共生のメッセージ	251
-----	------------------	-----

第十章	「開かれた文明」のダイナミズム	285
-----	-----------------	-----

第十一章	不朽の事業——未来の人類のために	319
------	------------------	-----

第十二章	青年とともに「永遠の向上」を	353
------	----------------	-----

文化と芸術の旅路 目次

第一章 求道の青春 友誼の歩み 7

第二章 学芸とは人間性の戦い 35

第三章 民衆こそ友好の大海 59

第四章 人生の勝利——「師弟」の道 89

第五章 「漢字」の力——東アジアを結ぶ智慧 119

第六章 正義の言論——「良書」に光る不滅の英知 149

第七章 東洋美術の真髄——「美の交流」の喜び 183

第八章 限りなき「創造」の精神 217

第九章 法華経——平和と共生のメッセージ 251

第十章 「開かれた文明」のダイナミズム 285

第十一章 不朽の事業——未来の人類のために 319

第十二章 青年とともに「永遠の向上」を 353

装画 饒宗頤

「漢人吉語花卉四屏」より「牡丹」（部分）

装幀 鈴木正道 (Suzuki Design)

文化と芸術の旅路

- ・引用文中に付したルビ、および改行は編集部による。
- ・編集部による注は（ ）内の 〓 の後に記した。

第一章 求道の青春 友誼の歩み

人類の永遠の財産——知性と芸術の対話

孫 「朋^{とも}あり遠方^{えんぽう}より来る^{きた}、亦^{また}樂^{たの}しからずや」。これは、いうまでもなく孔子^{こうし}の有名な言葉です。

遠方^{まづこころ}からの友を真^ま心で迎え、大いに語り合うことは、人生における大きな興^き趣^{ようしゆ}の一つに違^{ちが}いありません。饒^{じよう}宗^{そう}頤^い先生と池田大作先生はどちらも、そこが東京であれ、香港^{ホンコン}であれ、友が訪^{たず}ねてきたならば、孔子の生きた時代のように、襟^{えり}を正^{ただ}して端座^{たんざ}し、時^{わす}を忘れて語り尽^つくすことでしよう。

お二人の先生は私にとって、学問^{がくもん}の師^しであり、人生の師です。

この現代^{げんだい}の巨星^{きよせい}ともいうべきお二人を前にして、私のような若輩^{じやくはい}者は、傍^{かたわ}らで身^みを正し、耳^{かたむ}を傾^{かたむ}けさせていただけるだけでも幸運^{こううん}だと思うべきでしょう。

このたびは、司会役^{しかいやく}を務^{つと}めさせていただきします。

池田 こちらこそ、よろしく願^{ねが}ひします。

孫立川博士^{そんりつせん}は、名門^{めいもん}・厦門^{アモイ}大学を出て、京都大学で博士号^{しゆとく}を取得^{しゆとく}された俊英^{しゆんえい}であられ、

魯迅研究の第一人者、文学者、翻訳者として名高い。中日文化交流の促進に多大な貢献をされてきたことも、よく存じ上げております。

饒宗頤先生は、誰もが仰ぎ見る「学芸探究の大師」であり、中国学の泰斗であられます。文学と芸術の深遠なる造詣の上に、先生が築いてこられた学術の巨大な成果は、人類史を照らしゆく偉業であると、多くの識者が一致して称讃しています。私は、「東洋のレオナルド・ダ・ヴィンチ」と讃えたい。

豊潤な中国文明を受け継ぎ、その真髄を深く掘り下げてこられた碩学として世界的に知られる饒先生と、こうして語り合える機会をいただき、我が身の幸福に胸が躍ります。先生が生涯を懸けて磨き抜いてこられた、眩き知性の宝玉は、百年、千年の時を超えて、永遠に人類の財産となりゆくことを、深く確信しております。

饒 恐縮です。私の方こそ、池田大作先生とこうして語り合うことに、大きな幸せを感じ

孔子 前五五―前四七九 春秋時代の思想家。儒教の始祖。理想の政治をめざして、魯の国で要職に就いたほか、諸国を歴訪した。その言行は弟子たちにより『論語』などの書にまとめられた。

魯迅 一八八一―一九三六 文学者・思想家。日本留学中に医学から文学に転じる。魯迅以外にもさまざまな筆名で、社会悪を告発する文筆活動を行う。『狂人日記』『阿Q正伝』などを著し、民衆解放運動の精神的支柱となった。

じております。先生の博識はくしきもそうですが、何よりも行動者こうどうしゃであり、実践者じっせんしゃであることに、敬意けいひを表ひようします。

これまで私は、池田先生と三十年以上にわたって、詩文しぶんや書画しやが、書信しよしんの往来おうらいをさせていだきました。正直しやうじきに私の感想かんそうを申し上げれば、池田先生の一言一言は、まさに珠玉しゆぎよくであります。

文章ぶんしようの一節一節は、すべてが豊饒ほうじやうな心田しんでんから発はつするもので、それは聖せいなる仏ほとけの使いの言葉おものように重みうるおと潤いみちびをもち、世界みちびを導みちびいてゆかれるものです。

ともどもに未来みらいに向けて、人々に真実しんじつを伝つたえていくという神聖しんせいなる使命しめいを果たはしていきたいと念願ねんがんします。

孫 IT (情報技術) の世紀せいきを迎むかえ、異なる国ことに身みを置おき、遙はるか遠とおくに離はなれていたとして、現代つうしんしゆだんの通信手段はは、友と友を容易よういに結むすびつけてくれます。

必かならずしも本人ほんにんどうし同士が膝ひざを突つき合あわせずとも、語り合うことができるわけです。二千数百年前の孔子こうしの時代には、想像そうぞうすらできなかつた世界でありましよう。

私たちの、これから始はじまる「知性ちせいの旅たび」「芸術げいじゆつの旅たび」も、必ゆたずや豊かな実みのりをもたらすに違ちがいありません。

池田 いいですね。「知性の旅」「芸術の旅」とは、まさに饒先生、孫博士との出会いと交友にふさわしい言葉です。

孫 お二人の交友において、詩歌や書画といった芸術作品を贈り合っていることは、特筆に値します。とりわけ印象深いのは、饒宗頤先生が二〇〇三年に池田先生にお贈りした巨幅の書法作品です。

それは法華經の句をしたためたもので、縦三メートル、横六メートルという巨大なものでした。

「每自作是念 以何令衆生 得入無上道 速成就仏身」（『妙法蓮華經並開結』創価学会版。以後、法華經の經文の引用は同書による）

饒先生がしたためた二十字には燃え立つような勢いがあり、鉄を鍛える如き重厚な筆致が感じられます。

饒 この法華經の書は、私の最も大きな作品の一つでしょう。一枚の宣紙に一字ずつ書いて、それらを貼り合わせたものではありません。ですから、すべての文字を収める大きな

法華經 大乘仏教の經典。漢訳では鳩摩羅什訳『妙法蓮華經』が広く用いられ、一般に法華經といえば『妙法蓮華經』をさす。諸經典のなかで最高の經典とされ、大乘仏教を代表する經典として、中国や日本の諸文化に大きな影響を与える。

宣紙をつくることから始めなくてはなりませんでした。

この作品は、オーストラリア滞在中にしたためたもので、何人もの人々に手伝わってもらいました。紙を押さえる係、墨の係、その他の準備係など。

そして、我が思いをダイレクトに伝えたく、一気呵成に書きました。あのように大きな字は、かつて書いたことがありません。でき上がった作品を見ると、自分でも納得のいくものでしたので、池田先生にお贈りさせていただくことにしたのです。

一つ不思議なのは、私の大字作品で気に入った出来のものは皆、仏典に関係しているということです。古代中国の仏学界に「宗頤」という名の僧がいました。私はよく冗談で、私の前世の前世は、仏弟子だったに違いない（笑）と言うのですが、それは名前自体にこうした奇妙な一致があるからです。

池田 饒先生の偉大な作品に、私は生命の底から感動しました。鑑賞させていただくにつけ、その溢れんばかりの気迫と躍動する雄渾な筆致に、ただ圧倒されるような思いでした。あの見事な書には、誰もが感嘆せずにはいられないでしょう。

まさしく、この二十文字は、一切の仏教經典の根幹であり、法華經の肝要である如来寿量品第十六の結語となっています。法華經という人類救済の大叙事詩を凝結した魂